

九州運輸局メールマガジン

平成22年4月28日 第80号(発行日:毎週木曜日)

~九州の明日を拓く運輸と観光~

九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

次号は、5月13日(木)に配信いたします。

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報(4月22日~4月27日掲載分)
 - 各種情報
 - 各種手続き
 - 報道発表
 - おすすめ情報
- 2 現場レポート【交通環境部物流課】
 - 第34回運輸コロキウム開催
- 3 九州運輸局セミナー【運航労務監理官】
 - ソフト面から総合的に船舶の安全運航の支援を行っています
- 4 リレーコラム【北九州自動車登録事務所長 宮崎 文昭】

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報(4月22日~4月27日掲載分)

各種情報

《入札・契約情報》

・企画競争実施公示

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI

各種手続き

《海技試験制度・合格発表》

・海技免状等の国家試験

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

報道発表

・「航路・鉄道の維持・活性化・再生に向けた取組事例集」を作成しました（４月２２日発表）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/220422.pdf>

・一般貨物自動車運送事業者に対する事業停止処分（４月２３日発表）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/220423.pdf>

・プレジャーボート等小型船舶に対する安全キャンペーンを実施します（４月２６日発表）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/220426.pdf>

・平成２２年度「物流連携効率化推進事業」の公募結果について（４月２７日発表）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/220427.pdf>

・ミス・タイランド「オンウィパー・カノックナティーサワットさん」が九州運輸局を表敬訪問
します（４月２７日発表）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/220427_2.pdf

おすすめ情報

・交通関係支援メニュー（従来の「支援メニューあれこれ」のリニューアル）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/guaide/body.htm>

公共交通活性化関係

・なるほど！！公共交通の勘どころ〔別冊〕

航路・鉄道の維持・活性化・再生に向けた取組事例集

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file10a.htm>

<交通環境・物流・バリアフリー関係>

・九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会（平成２２年度表彰候補事業の募集）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyu_green/katudou/katudou.html#event

・九州グリーン物流パートナーシップ推進協議会（平成２１年度表彰企業）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyusyu_green/katudou/katudou.html#hyousyuu

その他

・天神公共交通マップ

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file11.htm>

2 現場レポート

(財)九州運輸振興センターは「第34回九州運輸コロキウム」を4月21日(水)ホテルセントラザ博多で開催し、九州各地の観光・交通事業者、自治体関係者など約100名の参加があり盛大に開催されました。

今回はJR九州高速船㈱の丸山康晴社長をお招きし「アジア大交流時代を迎えて」というテーマで講演をいただきました。

開演に先立ち、澤山健一九州運輸局次長から九州新幹線全線開通に向けての九州観光の発展などについての挨拶がありました。

講演では、日本と東アジアとの交流の重要性、利便性などについてご説明があり、特に今後の韓国との交流の更なる発展につながる、韓国的高速鉄道の開通、更には九州新幹線の全線開通により、韓国ソウルから鹿児島まで鉄道、船舶の高速交通網が整備されることにより、益々韓国からの観光客の入国が見込まれる。そのため、福岡近郊の観光スポットだけではなく、九州全体が一体となり、温泉、グルメ、自然等の九州観光の魅力を再認識していく事が重要である等の報告がありました。

最後に意見交換が行われ、自治体関係者等から活発な質問があり、皆様の関心の高さがうかがえました。

(九州運輸局 交通環境部 物流課)

3 九州運輸局セミナー

船員法等に基づく監査を行っています。

最近の海難事故発生原因を見てもみると、依然として、見張り不十分等のヒューマンエラーが原因と思われる衝突・座礁・転覆などの海難事故が発生しています。また、乗組員の海中転落による行方不明や死亡事故も依然として後を絶ちません。

運航労務監理官はこれらの海難事故や船員災害の未然防止・減少を目指して、船員法を始めとして労働関係法令や航海当直基準等の各種基準の遵守状況についての指導・監督を行っています。

運航管理に関する監査を行っています。

海上運送法および内航海運業法に基づく船舶の運航について、運航管理者などが主体となって船舶運航の管理が確実に行われているか、運航管理者から船長に対しては、どのような指示や情報提供を行っているか、万一事故やインシデントが発生した場合にどのような対策や再発防止策をとっているかなどの実態を確認する運航管理に関する監査を行っています。

また、監査の際は、安全管理規程などの必要書類が船内に備えられているか、またその内容が乗組員に十分に理解されているかどうかについても確認をしています。なお、この監査は、前述の船員労務監査と出来るだけ一体的に実施することでより効率的な監査となるように努めています。

運輸安全マネジメントの評価も行っています。

平成18年10月からスタートした「運輸安全マネジメント制度」に基づく海事部門についての運輸安全マネジメント評価では、運航労務監理官が、各事業者の本社などに伺い、経営トップを始めとする経営陣（安全統括管理者、運航管理者）などから、事業者自らが構築している安全管理体制の実施状況や改善の状況について、直接のインタビューや関係書類の記載内容を確認し、優れた点については評価し、一方、改善すべき点については、改善に向けての助言を行っています。

このほかに、安全統括管理者や運航管理者への講習会を行い、関係団体が実施する講習会などへの講師の派遣等に協力することにより、安全管理体制に係る取組みに対する事業者へ支援を行っています。

以上のように、運航労務監理官は監査、評価、講習会などを通じて、ソフト面から総合的に船舶の安全運航の支援を行うことで、海難事故や船員災害の減少や未然防止のため、日々の業務に取り組んでおり、事業法と労働関係法の両方を取り扱っていることから、海事分野の幅広い知識と経験が要求されるため日々、研鑽を重ねています。

（海上安全環境部運航労務監理官）

「百万都市」、「門司港レトロ」などが北九州市のイメージとしてあった。

3回目の単身生活となるが、初めての北九州であり、不安と共に期待も大きかった。海と山は近く、道路は広くはないが複雑であり、市全体に賑わいと活気がある。

職場は「合・否」や「受理・不受理」の検査や審査を行うので、時々トラブルが発生するが、周囲からは「昨年から随分トラブルが減った。」と言われている。4月の窓口状況は以後1年間を占うので気を抜けない。少ない人員で何とか乗り切っているが何時も混雑している。

福岡県では本年4月から全国初の暴力追放の条例が施行され、北九州市では市長以下「官と民と地域住民」が連携してイメージアップに取り組んでいる。小生も立場から要請を受けて2回暴追大会に参加した。

休日は通常、家族がいる熊本に帰郷しているが、毎月1回の宿舎の草取り日は北九州市で過ごし「名所旧跡巡り」を目的にクルマで遠出をしている。福沢諭吉記念館では、『北里大学を創立した阿蘇出身の北里柴三郎が“恩返し”として福沢諭吉が創立した大学の医学部の新設に初代医学部長として全面的に協力していた』ことが分かった。北里博士は血清療法の功績により第1回ノーベル生理学・医学賞候補にもなったが、“肥後モッコス”の典型のような人である。北九州は文豪を数多く輩出している。小倉城内の「松本清張記念館」からの帰り道に旦過市場を通り、呼び止めて勧められたので「糠床煮」を買った。小倉城主であった小笠原氏が長野の松本から持ってきた保存食だそうで身と糠床を混ぜて食べるよう教えられたが、健康的で酒の肴にもなる。“生食不可”と朱書された新鮮な「牛レバー」を見つけて店員に『昔は生食してましたよね?』と聞くとニコツとして包んでくれた。昔やっていた薬味で生食したが絶品だった。

“癒しと海の幸”を求めて山口県の日本海側へ行くこともある。小生は股関節を患っているので激しい運動は出来ないが、負担が少なくストレス解消にもなるので時々“素潜り”をやっている。近くには古代人を大陸向きに埋葬した“土井が浜遺跡”があった。宮島へ行けば荘厳な厳島神社とクリーミーな「焼き牡蠣」がある。

北九州市からは何処に向かって走っても「名所旧跡」と「海の幸」そして「温泉」に巡り会える。「温泉」はサラサラが多いが設備はとても良い。

「医食同源、体温と免疫力は比例する、学んで遊ぶ」の諺を信じて、北九州の休日には予備知識を入れてクルマを走らせている。4月から予定外のより深い「名所旧跡・海の幸・温泉巡り」となっている。

(北九州自動車検査登録事務所長 宮崎 文昭)

【編集部より】

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。

編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。

下記のメール又はファックスからお気軽にご連絡ください。

九州運輸局メールマガジン編集長(九州運輸局総務部広報対策官)

藤原 寿男(ふじわら としお)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次の URL に掲載しています。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html